

平成２７年度 岬町行財政改革懇談会議事録

日 時	平成２８年１月１８日（月）１４：００～１６：００
場 所	岬町役場 ３階 第２委員会室
出席者	（敬称略） （会長） 足立 基浩（和歌山大学経済学部 学部長／教授） （副会長） 宮川 益和（商工関係） 山原 學（指定管理者関係） 和中 信隆（税理士） 中小路 美佐子（女性団体関係） 永田 歌代（人権団体関係） 辻口 幸人（社会教育団体関係） 下出 忠（農業・水産業団体関係） 辻 昭江（高齢者団体代表） 松岡 信男（公募） 松田 桃子（学生）

１．開 会

２．副町長あいさつ

３．委員の委嘱および紹介

４．会長、副会長の選出

会長に足立基浩さん、副会長に宮川益和さんが選出された。

５．会長あいさつ

６．議事

１）諮問

２）岬町行財政集中改革計画（第３次集中改革プラン）（素案）について

（会 長）岬町行財政集中改革計画（第３次集中改革プラン）（素案）について事務局より説明をお願いします。

（事務局）資料３の前半部分について説明

（会 長）ありがとうございました。ただいま事務局より説明がありました岬町行財政集中改革計画（第３次集中改革プラン）（素案）について、質疑等はございますか。
 厳しい財政の中、何とかこれまでやってきたといったところかと思えます。ただ、依然実質公債費比率は他のところに比べれば少し高めの状況なので、少し頑張る必要があるかなといったところです。何かご意見等ございますでしょうか。

（委 員）投資額の件ですが、３頁のオの地方債残高で道の駅にどれくらいの金額が投資されるのかお答え願います。

（事務局）今現在、道の駅事業に関しては予定通りには進んでおりません。ほとんどの工

事については来年度になっていますが、今現在、この平成27年度見込みの事業費として5億6,600万円の予算で見込んでいます。ただし、平成27年度については、事業が進んでおりませんので、決算では、これほどの投資的事業ではなくなる状況です。

(委員) 事業が遅れているということですが、実際の見込みで、例えば平成28年度中に完成予定などはどうなっていますか。

(事務局) 今現在、平成28年度の当初予算を財政担当の方で査定をしているところで、それについては平成28年度中に残りの部分を完成させるということで予算が上ってきている状況です。トータル的には平成27年度と平成28年度を併せた中で5億6,600万円程度に収める状況になるかと思います。

(会長) ありがとうございます。5億円位の規模の道の駅ということと思いますが、その他何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは後半部分の説明をお願いいたします。

(事務局) 資料3の後半部分について説明

(会長) ありがとうございます。今後の重要な施策と財政収支の見通しの試算について説明をいただき、細かい財政状況はまだ未定稿となっていますが、その後新たな行財政集中改革計画策定の必要性等について説明をいただきました。何かご質問ご意見等ございますでしょうか。

これまでも人口の減少がかなり激しく高齢化率が35%と非常に高く、収入が減る中で、どうやってやりくりをするのかといったところについてしてきたのですが、これからも引き続きこういう形で進めるということかと思います。何かご意見等ございませんか。

(委員) 町の活性化について、5頁ア以下のことについては、全てが町の活性化に関連したことで、こういったことが出来れば町の活性化にも繋がると思いますが、今後必要となる重要施策の中に町の活性化がトップにあり、そのあと活性化をするためには高齢化と少子化対策などに繋がってくるのではないかと思います。これについては昨年、地方創生で岬町がアイデアの募集をしたと思いますが、この結果どういうアイデアが得られたのか、また、それを岬町としてどのように生かしていくのかということが大切なことと思います。今のところそれが中途半端になってしまっただアイデアを聞いただけというニュアンスにしか私は受け取っていませんが、それがどうなっているのかを含めてお聞きしたいと思います。

(会長) ありがとうございます。説明をお願いします。

(担当部長) ただいま委員からご質問をいただきました、町の活性化に向けた部分ですが、5頁のアの町の活性化のところに書いています「まち・ひと・しごと創生法」というのが昨年公布され、岬町でも今現在、この「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定作業を進めているところです。こ

れについては1月25日から「岬町人口ビジョン」と併せまして公表させていただきパブリックコメントの中でご意見をいただく予定です。そのパブリックコメントを経まして3月中に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定する作業をしているところです。住民の皆様からも色々なご意見、岬町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の中でも委員の皆様からも色々なご意見をいただいたところです。それを取りまとめた方向性的なものを今回この計画の中でまとめているところです。また具体的な施策の内容等については、実質的な予算との絡みもありますので、どのような事業に取り組んでいけるかというのは、毎年の事業の中で判断をしていく考えです。なお、住民の皆様からいただいたご意見等については、各担当部署の方で検討をさせていただき、取り組めるものについては取り組んでいくという考えです。特に岬町の場合、人口の減少に歯止めをかけるのは非常に難しい状況であるのは事実です。今、人口ビジョンの中で試算している国等が公表しているデータでは、岬町の人口は2040年には1万人を割るという報告もされているところです。これにいかん歯止めをかけ、減少するのを止めることはなかなか難しいですが、緩やかな減少の中で町の再生を図っていくことが重要なポイントと考えています。その中で色々なご意見をいただいているのですが、まず一つ大きな特色としては、定住人口の増加が難しい状況の中で交流人口を増やしていこうということです。岬町の中には海洋資源や様々な観光の施設があります。大阪府内でも比較的恵まれた自然環境にあります。そういう自然立地を活かしながら交流人口を増やしていこうというのが一つの大きな柱となっています。それと併せて地域の雇用を確保するというので、今現在、多奈川地区で募集をしています多目的公園がありますが、こちらで企業誘致を進めており、そこへ企業誘致による雇用の確保を併せながら実施していくというのが大きな柱として考えているところです。また、個々具体的内容についてはホームページ等での公表、各予算編成の中で事業化していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

(会長) ありがとうございます。その他何かございますでしょうか。

(委員) 道の駅は、平成28年度中になんとかなるということですが、当然十分なシミュレーション等をされていると思いますが、今ここで需要と供給のバランスがどうかやシミュレーションをしてどうか等の話をしてくださいと言ってもなかなか難しい問題であり出来ないと思います。道の駅をするにあたり町として職員の中で、あるいはコンサルや専門家を雇用して研究してきたとか、その辺の過程はどのようになっていますか。議会を通して承認してきていると思うのですが、私が個人的に見ていましたらある人が一人か二人でしているような場面も見聞きしています。何でも商売をするには利益を出さなければなりません。いくら議会を通過していると言っても、事業が始まってから赤字が出たでは困ります。具体的な施策はこれから策定する見込みと言われましたので、道の駅もその程度のシミュレーションであれば、

大変失礼ですが頼りないやり方をしているのではないかと思います。そのシミュレーションをしているか、していないか、しているのであればこんな事を言う必要はありません。農業委員会も協力してくださいという事で協力させていただいているのですが、肝心のものがはっきりしなければ協力も何も出来ません。この辺で何とかシミュレーション位しないといけないと思うのですが、現実には言えば業者も集まらないような状態ということも聞いており担当者も大変と思います。

(会 長) 今の道の駅について、進捗や方向性など何かありましたらお願いします。

(関係部長) 道の駅については都市整備部の担当ですが、本日は担当部長が欠席しておりますので、私の方で概要をお答えさせていただいて、他の職員からのフォローをお願いしたいと思います。

(委 員) 説明というよりシミュレーションを実際したかどうかの点だけで結構です。

(関係部長) その辺も含めて、お尋ねの点は町の活性化を目的として、先ほど企画担当も言いましたように、岬町の人口が減る中で交流人口を増やすという目的のために道の駅を設置して、場所は第二阪和国道の淡輪ランプの降りてくるところの丘の上に造るということで、来月位から造成工事にかかるかと聞いています。そして、まず予定の話ですが来年度中には第二阪和国道を和歌山市まで延伸するという事を国の方が言っていますので、それに間に合うように進めていくと開通と同時に道の駅を開駅して営業しようという日程になっているのが1点、それと事業の進め方ですが、これは町単独ではなく、国と連携しており、道の駅本来の休憩施設であるトイレや駐車場は国が上物を整備し、観光案内所や地域振興施設というのは町の方が整備をするという連携の事業になっています。委員が心配されている運営方法については、町の方が考えているのは指定管理という形で考えています。まだいつ指定管理の公募をするのかについては聞き及んでいませんが、実施設計が終わっていますので、来年度中には造成をし、国はトイレ施設等を造り、町は観光案内所を造って色々案内をして町の特産品を販売したり、集客の部分も含めて交流人口を呼び込もうと考えています。また、お尋ねのシミュレーションについては聞き及んでいませんので、その辺ハードを併せてソフト面の検討をしなければならないというところでは。

(委 員) 指定管理ということは、今の説明であれば町行政がシミュレーションをするのではなく、指定管理者が決まったら自らシミュレーションをしてくださいと。それはメリットがあれば来ますがメリットが無ければ来ません。単純に言うとなんかということですね。その辺のところも聞きたかったのです。結構です。

(関係部長) 指定管理者制度でしようということです。とっとパークみさきというのがあり、これも地元で指定管理で全面的に運営をしていただいています。指定管理と委託の違いは指定管理の方はそこで入ってくる収入も管理者の収入として、その中で経営をします。昔はそういう制度が無かったので町の公共施設は町が直営原則で、

そのうちの一部を業務委託ということしかできなかったのですが、そういう指定管理者制度も１０年以上前に制度が出来たので今回もそういう指定管理者制度を想定して考えるという状況です。

（事務局）今、この施設の建物としてその中には地場特産販売所が計画されて実際そこで地域の物産等を販売したいというところまで決まっていますが、先ほどのシミュレーションにつきましては、本日は担当部長が欠席していますので、詳細は不明ということです。

（会長）ありがとうございました。その他何かございますでしょうか。

（委員）私が感じることは、この道の駅について、当初から道の駅を検討する委員会の中に入っていますが、場所的な部分については町でどんな形で選定したのかわかりませんが、その場所を初めて聞いた時に場所が悪いと思いました。横に火葬場があるので好ましい場所ではなく、場所を変更することが出来ないのかということを再三言わせていただきました。もう一つは商品の調達です。当時の担当部長が、岬町に鮮魚と野菜と色々アンケートを取れば、年間に１００トン近い物が収穫できると言われていましたので、それはどのような形で農業関係者と直接そういう話をされたのかと聞くと、住民にアンケートを取りましたとのことでした。それはそうだろうと、アンケートを皆に回せば、「うちに野菜があるので参加させてもらおうか」「ちょっと魚を買ってくれるのであれば渡そうか」と、その程度の調達方法であれば１年中の供給は出来ません。なぜかと言うと、岬町の地元の魚を使うとなれば海は時化る日もあります。魚の加工場也没有。百姓が年間栽培をしようとすればビニールハウスも要ります。そういう年間を通じて調達が可能なスケジュールを組んでいるのかと聞けば全く組んでいません。建物が出来て商売をするようになれば、儲ける必要があり、岬町の指定管理の施設は指定管理をしながら町の財源を補助しているのです。健康ふれあいセンターもそうです。そういう形で指定管理者制度というのは、あくまでもお任せしますよ、そこから上った利益については町へ還元します。しかし道の駅にしてもとっとパークにしても何にしても正直言って、年間議会で報告するようになれば町の職員はいつも僕のところに聞きに来るのです。私は１年間ずっと記録を手帳に付けています。天候までつけています。そういう状態の中で、もし町が管理でそうするのであれば、それをある程度町の職員が把握していただかないと困ります。この時期はすごく客数が減っているがなぜかと、それは台風が来て天候が悪かったので人は来ませんなど、道の駅が出来て受けた業者がどういう形で野菜や何にしる１年間供給できるのかという事を先にきっちり組んでおかなければなりません。岬町にそれだけ海の物は絶対ありません。海が時化たら何も入ってきません。網も張っていますが、アジがたくさんかかっても一部買うだけで全部は買ってくれません。あとは加工場があってこそ処理できますが、岬町にはその加工場也没有。岬町ではなく大きなところで契約をして商品は岬町から

発信するようにしておけば、地元で獲れた魚になるのです。野菜も現地の人と契約をしてここまで持ってきて岬町の札をつけたら地元産になるのです。ところが岸和田や貝塚など他所で買ってそれを持ってくれば地元産ではありません。その辺をきちんと枠を組んでいかないと、大きな失敗をしなければいいのですが。それが我々町民として一番心配するところです。

※所用につき会長が退席することになり、副会長が会長業務を行う。

(関係部長) 指定管理者制度は儲けるためにではなく、地方自治法が改正された際に、まずそれまで公務員がずっと公の施設を運営してきたということで、例えば健康ふれあいセンターも町の職員が、そこへ行って運営をしてきたという経緯があり、自治法の指定管理の趣旨はまず民間ノウハウを活用してよりよいサービスを提供しようというのが第一です。次に、その上で経費の節減も図ろうということです。現在指定管理者制度を導入しているのは福祉関係で言うと、淡輪火葬場の運営と淡輪老人福祉センターの運営、これは長生会にお願いをしています。健康ふれあいセンターもしています。福祉関係で元々受益者負担をいただいています、儲かるものではありません。教育関係ではアップル館といって子ども向けの図書館のようなものを運営しています。とっとパークについてはご紹介いただいたようにしています。

(副会長) 他にございませんか。指定管理を含め色々なことや、今後のために先に聞いておいた方がよいと思うことがありましたらお願いします。

(委員) 委員さんが言われたように、誰がやるにしても需要と供給のバランスが大事です。運営してから月に何百万円も赤字が出たとなれば町も民間も住民さんも困ります。その辺が危惧する点であり、コンサルでなくてもシミュレーションをして指定管理の候補者をたくさん集めるためには、やはり需要と供給のバランスがとれていなければ、いくら来てくださいといっても来ないと思います。その辺を慎重に審議していただきたいとお願いをしておきます。

(関係部長) 少し補足をさせていただきます。とっとパークは道の駅として運営をしており町から一切お金(委託料)は支払っていません。通常の道の運営管理の部分で、これは大阪府から入る部分については支払いをしています、黒字経営をしていただいております、逆に年間約1000万円位を町の方へ入れていただいております。そういう成功例もあるということを紹介させていただきます。ただ、今度出来る道の駅についても出来るだけ頑張ってとっとパークのような黒字運営が出来るように考えているようですが、なかなか色々厳しい面があるというのは事実です。それをいかに黒字にしていくのかは指定管理者の方がいかに努力をしていただくかというところにかかってくると思っていますので、その指定管理の方を早急にというのが町の作業になっていると思います。

(副会長) 指定管理に関しては出来るだけ役所の方で頑張って考えていますよという説明

出来るものをもっていただきたいと思います。他にございませんか。

(委員) 9頁の5行目に「予想しがたい社会・経済状況」など言い訳のようなことを書かれています。10年近くされてあまり効果が無いというのは、もっと見ていくところが違うのではないかという気がします。また、下から7行目に「単年度における財政収支の黒字を目指すのではなく、長期的に考える」と書かれており、これもよくわかるのですが、やはり単年度はある程度黒字を積み上げていかない限り長期的に見てもこれは絶対黒字になることはないと思います。その言い訳がここでまた戻り戻って一緒に繰り返しになるのではないかと単純に考えるのですが、その辺経済情勢が色々変わるのとはよくわかるのですが、ただ10年近くされていてその効果が出てこないというのは、やはりどこかに問題があるのかもわかりませんし、単年度で黒字を出さないという考え方は、大きな問題ではないかと思います。やはり、1年1年黒字を出していき、その積み上げが5年間経てばこれだけ出来たというのが1つの効果です。普通の企業ではそういう形で赤字を消していくのが普通の考えだと思います。公的なものはそうではないかも知れませんが、ただ赤字を消していくには、やはり黒字を出さない限り絶対無理ですので、単年度勝負で長期的にかかるものは仕方が無いと思いますが、単年度で黒字を目指さないという考え方は少しおかしいと思います。

(事務局) 中期的視点から黒字を目指すと書いているのは、平成29年を見据えて書いているところがあります。平成29年に11名の退職者が出るということで、一般企業であれば退職手当引当金を作り常に退職者の退職金を見据えて経営をしていると思いますが、地方公共団体の場合はそういうものはありません。それでどうしても一気に単年度も含めて黒字で行くのは一番難しいところであることから、そこで中期的に黒字を目指すという形で書かせていただいています。よって、平成29年度においては退職手当だけで、前回の計画では退職手当に対しての起債(借金)をせず、なおかつ退職手当については3年分割または2年分割の形で平準化したいと進めてきたのですが、それについては負担の先送りと考えますので、現在その部分のみがどうしても今の試算では黒字にすることが難しい状況ではないかということで、ここは中期的な財政収支を黒字にしたいと書いているところです。

(委員) 仕方がないというのはわかりますが、何年に誰が退職するというのは中期ではなく長期ではっきりわかるはずですが、それを言ってしまうとダメなのかも知れませんが、財政赤字になっているのだからある程度中期も長期も考える必要があるのに今頃また中期でそのようなものを持ってくるというのは、少し話が矛盾するとは言いませんが、何かその時だけの5年間を考えたらよいという考えではないかと。退職金の話は今回初めて出たわけではなく前回も出ていましたので、誰が辞めるというのははっきりわかることですので、やはり長期的に考える必要がある話であり、そう考えるとどちらにしても単年度に黒字を出さない限り、それを充当していけな

いというのは事実ですので、単年である程度黒字を出すというのは単純かも知れませんが、普通の企業会計では絶対単年で黒字を出す必要がありますし、今言われている退職金、当初はありましたが今はもう経費で認められないという形になってきていますので、段々よく似た形になってきているのは事実であり、企業としては努力をして色々なことをしますが、公務員の場合はそれが出来ないと言われれば仕方がないのですが、それでももう辞めるというのは、長期的にははっきりわかっていることです。それに対する充当をすることは考えられないことは無いと思いますので、やはり中期に考えるか、短期に考えるかというのは、当然、短期、中期、長期で考えていくことで、まして財政が赤字になっているのだから考えていかなければならないことなのに、何か単発的に中期のみこういう風に言われて最終的にまた退職金というような事を言われたら、少しどうかなと思うところです。それをどうこうしてくださいとはいいにくいところかも知れませんが。以上です。

(事務局) 中期的と書いていますが、基本的に長期的には財政構造も含めて体制的には黒字体制に持っていくのは当然ですので、その辺は少し含みを持たせて考えさせていただきたいと思います。

(関係部長) 財政が苦しい中でこのような表現を使われていると思います。一つは町が今まで赤字を打ってきたのかと言われれば、近年一度も打ったことが無く、何とか黒字決算で推移してきました。ただ、これも事業をしながらなので、その辺しんどい面があったと思います。先ほどもご質問をいただきました道の駅もこれから投資をしようとしています。さらに、町営住宅の建替えをしており、これはまだ事業の途中です。さらに海岸連絡線をこれから事業化して新しい道を作ろうと、さらに、みなとオアシス岬の深日港に観光案内所を整備しようとしています。一方ですごく財政が厳しいのになぜ事業をするのかとよく言われますが、あちらこちらで事業をしながら、節約をするところは節約をして見直すものは見直しをしてやってきたということです。近年まで綱渡りのところもあったと思いますが、黒字決算で何とか推移してきたというところです。ただ、今も委員さんからお叱りを受けているのですが、ではこれからは黒字決算でいけるかといえば財政も自信の無いところがあり、もしかしたらこれから中期的に見て5年間のうち1回は赤字決算を打たなくてはならない場合も出てくるのかなと、実質的な赤字ですが、その辺、数字も含めてこれからもう少し精査をする必要があると思っています。

(副会長) 他に何かございませんか。

(委員) 話を社会的環境の方に戻していただいて、そこで1点質問をしたいと思います。少子化問題や人口の減少などを問題点にされ、道の駅等を推進して観光振興を図っているという事が話の中でわかったのですが、私としては、岬町は和歌山市や大阪の大都市、もちろん阪南市や四国、淡路島と非常にアクセスの利便性が高くてそれが魅力になる町ではないのかと客観的に見て思っていました。そのような点から、

その観光振興に力を入れるのも勿論重要で大切なことと思いますが、岬町は非常にベッドタウンの環境を整えやすい町ではないのかと思っており、その点で今まで過去や現在でもベッドタウンの方向に重きを置いて何か活動をしたことがあったのか、または岬町はベッドタウンが整えにくい環境であるという考えがあればお聞かせ願います。

(担当部長) 今、ご質問をいただいたベッドタウンということですが、岬町は昔から大規模な住宅開発があまり行われていない町です。住宅地としては、昭和40年代にみさき公園駅周辺の開発が行われ、あと、平成に入り阪南市との境界に望海坂地区が開発されました。元々岬町の場合、町域の全体の約7～8割が山地で平地部が非常に少ないのが大きな要因となり、そういう大きな住宅開発がなかなか行われなかった町です。あと、交通のアクセス面からいいますと、確かに大阪市内まで1時間弱で行ける距離ですが、住民の方等へアンケートをとると、住み良い点としては、「自然が豊か」という回答が多いのですが、住みにくい点では逆に「交通のアクセスが悪い」「買い物が不便」「病院が無い」という回答を多くいただいています。特に若い世代が転出する割合が非常に多い「進学」「就職」「結婚」という3つの段階において、それぞれ町外へ転出をしています。どこへ転出したのか調べると、泉佐野以南の泉州地域に移られる方が結構多い状況になっています。これは、一つは住宅の供給が無いというのが大きな問題と考えています。現在、岬町には空き家が多く、大阪府下で一番空き家率が高くなっております。例えばみさき公園駅前の団地等もかなりの空き家が増えてきている状況になっており、岬町では空き家バンクという制度を設けて空き家を登録していただき、町外から住民の方にお越しいただく政策等も行っています。また、中古住宅を取得する際の助成等もしていますが、なかなか都心部からこちらの方に移っていただくというのが難しく、一方で若い世代が出て行っているという現状です。それと、交通アクセスの点から言うと、かつて岬町には深日港から四国、淡路への航路が開けていました。これについては、明石海峡大橋等の開通の影響もあり現在は全て廃止されていますが、町長は、この航路の復活に力を入れており、洲本との間での航路を復活させることで大阪湾を一周する観光ルートを立てて関空からのインバウンドの方々をこの南ルートで大阪湾をぐるりと回っていただけるような新たな観光ルートが出来ないものかということで、今航路の復活にも取り組んでいる状況です。

(関係部長) 少しだけ補足をしますと、ベッドタウンとしての魅力があるのか無いのかということになると思いますが、デベロッパー（開発業者）の方々に色々聞くと、実際問題首都圏に比べて2時間もかかって通勤するようなことはありませんので、1時間程度で難波に行くことができれば十分通勤圏に岬町もあるというのが実態ですが、全国的に人口が減少する中で、岬町まで開発の波が来ていない状況です。望海坂の開発で終わった後は、そういう開発業者のお尋ねや意欲もあまり聞こえま

せん。みさき公園周辺のマンション計画等も幾つかあったように聞いていますが、実際は頓挫したまま全く進んでいない状況です。また、若い方は最近大阪市内においても地下鉄の駅のすぐそばのタワーマンション等に移り住むような状況であり、そんなに利便性が悪い訳ではないのですが、より良い場所がたくさんあるので、なかなか岬町の方に開発が来ない状況です。また、転出する方も非常に多く、空き地や空き家の管理が問題になっているのが実情です。

(副会長) ありがとうございます。岬町外に住んでいる人から見た岬町というのも大事にしていきたいと思いますので、ぜひどんどん発言をしていただきたいと思います。

(委員) 5頁に町の活性化の一つとして、道の駅整備事業並びにオアシス整備事業を推進していくということで地元の観光を特に重視しているようですが、私の個人的な意見ですが岬町に宿泊しようと思っても民宿は皆廃業になってしまいありません。岬町は町長が絶えずよく言っていることに「海と山と景観の良い住みやすい岬町」をアピールしています。岬町の隣の和歌山の深山に国民休暇村があり、今増築工事をしています。宿泊予約をしようとしても半年位先まで満杯の状態です。それはなぜかと言うと、都会から来た人は、そこのレストランで食事をすれば眼下に友ヶ島を眺め大阪湾を一望できると、このような景色の良いところはないといっている人も賑わっています。地元の土産物も売っており、それくらい他所から人が出入りをして予約を取るのに半年位かかるほど人気があり今増築工事をしています。温泉も作るようで2ヶ月ほど休館になります。岬町の道の駅も大事な一つの大きな施策ですが、観光を取り入れるのであれば、もっとそういうことも町で、町の国民宿舎等という名目で国から補助金をいただき、そういうことを大々的にすればどっと人が寄ってくると思います。とっとパークでも宿泊するところはないのかと常に聞かれます。宿泊するところがあれば、ゆっくりしてまた翌日釣りが出来るのにと。そういうお客さんはかなりあります。もっと観光に力を入れるのであれば深日港のオアシスも大事ですが、明石海峡大橋が出来ていないときは、淡路島へ渡るには船で渡るしかなかったのです。ところが明石海峡大橋が出来てから、その船が皆廃業になってしまいました。それをまた観光的に大阪湾をクルージングするといっていますが、やはり都会の人は正直言って見慣れていています。関空から神戸へ高速艇が出ていましたが、一旦廃止した後再開して今でも出ていますが乗る人が少なくガラガラの状態です。そのようなことを考えたときに岬町に他所の人を沢山入れて観光的な事業をしていこうと思えば、この辺であれば国民宿舎しかないと思います。景観の良い山のところに建てると、まず地元の雇用ができます。そういうもっと大々的な計画を立てて欲しいと思います。

(副会長) ありがとうございます。何か事務局それに答えることはありませんか。

(担当部長) 確かに岬町はかつて大阪の奥座敷的な部分があり、淡輪のあたりで結構旅館も多くありました。小島にもいくつか旅館もありましたが、今はほとんど無くなっ

ています。今現在営業をしている大きなところといえば、海洋センターの海風館という宿泊施設、それと龍宮館、淡輪で1、2箇所ある位という状況です。色々聞いてみますと海風館も宿泊率が非常に低く、稼働率でいくと大体40%前後と聞いており、かなり稼働率が低い状況になっています。最近では、いわゆる中国のインバウンドの方が宿泊され若干収支も良くなってきているように聞いていますが、そういう宿泊施設を作るといのは、なかなか難しい部分もあると思います。それと、今現在、大阪府の方で条例が作られました民泊といい、いわゆる空き家など個人の家を宿泊施設に使うことの出来る条例が制定され、岬町でもそういう活用が出来るようになっています。ただ、宿泊日数が7泊以上でないとダメというような厳しい縛りがあるのも事実です。その一方で岬町内でも幾つかゲストハウスと呼ばれる施設も出来てきています。法的に問題あるか無いかはグレーな部分もありますが、そのゲストハウスについては、周辺の住民の方と若干トラブルも起こっているように聞いています。観光ということで岬町を売り出していく予定の色々な事業を展開しているのですが、どちらかというと日帰りで楽しんでいただく方を対象として、今現在考えているようなところでは、なかなか大阪に近いということもあり、例えば加太のような風光明媚、それから温泉等があれば高齢者の方を中心としたお年寄りの方が宿泊を楽しんでいただけたと思いますが、岬町にはそういう施設がない。岬町としては日帰りで楽しんでいただく方をターゲットに観光振興を図っていくと思っています。

(関係部長) 今日は懇談会ということなので色々な意見をいただいて、職員の方も思っていることを話しておきたいと思います。20年位前は企業の保養所や健康保険組合の保養所が確か10件程度あったと思います。町の方も全日本学生ヨット選手権をして全国から来ていただいた時も保養所関係等で全部賄えたということがありました。ただ、その後の長い20年近く不況が続いている中で、企業や健康保険組合で運営をされている保養所も縮小され大半が閉鎖されています。さらに民間の宿屋さんもやはり儲からないのか後継者が無いのかわかりませんが、ずっと減っていている事情です。そこに町が乗り出すべきなのかどうか少し検討する必要があるところです。道の駅みさきの役割は、そういう町内の観光施設へ立ち寄っていただいた方に宿泊施設があり、とっとパーク岬があり、みさき公園がありますよと、そういうものをPRしていき交流人口を増やして岬町を単なる通過するところではなく、どんどん立ち寄ってもらおうということで運営を考えているところです。

(委員) 今、減っていくという言葉が出ましたが、減っていくについてはなぜ減っていくのかということを追求して改善しなければなりません。とっとパークは最近少しお客さんが減っています。お客さんにどうですかと聞くと、最初の頃に比べて釣れが悪くなったと言います。寒くても釣れればお客さんは来ます。正直言って雪が降っても来ます。だから釣れないという要因は何かということまで追求しないと

いけません。漁礁を掘り込んで3、4年経つと古くなります。それに小さい牡蠣が沢山付きます。そうすると魚はあまり寄ってきません。防波堤にどんどん花崗岩を入れると入れた年は海藻が沢山付きます。もう牡蠣がついてしまえば全く付かなくなります。魚も一緒に自分たちの家が古くなってくれば新しい家に住みたいでしょう。だからそれを改善しなければなりません。花崗岩を入れて2、3年は魚が良く釣れます。自分たちで出来るだけ経費のかからないように色々なことを考え、ヒューム管を製造しているところへ行き亀裂の入ったものを分けてもらったり、コンクリートや鉄筋を自分達で入れれば人件費も無料になります。通常4、5百万円かかる事業費が皆ですと百万円足らずで漁礁ができます。そのように、減っていくということは何か原因があるはずで。その原因まで突き止めなければ、減っているからと言って放置したら減るばかりです。そうすれば「漁礁を入れてくれているな」「この頃また良く釣れるようになった」と、どっとまたお客さんが戻ります。だからどんなサービス業でも一時初めて出来たときは沢山お客さんが来ますが、それが横這いになるか、急勾配になるか、徐々になっていくかの違いです。天候で下がる年もあるが、また回復する。それは指定管理でも道の駅でも一緒です。なぜ人が寄らないのか、ここは便利が悪いから、だったら便利よくしようと、やはりいろんなことを追求しなければなりません。それをぜひ町の方でお願いします。

(副会長) ありがとうございます。事務局の方でまとめをお願いします。

(事務局) 今いただいたご意見は、やはり事業部に係るものが多いと思います。それにつきましては、事業部の方でこういうご意見をいただいたということでフィードバックしていきたいと考えています。それと、先ほど委員さんからいただきました中期的な部分につきましては、やはり言われるとおり長期的には黒字体質を目指すという部分が抜けていると思いますので、その辺を含めて次回修正させていただきたいと考えています。今後の部分について、現在未定稿になっている「改革前の今後の財政収支」のところでは、前回の第二次集中改革プランについては、平成21年度の決算に対して改革をしない場合どのような財政状況になっていくのかということを書いていましたので、今後については先ほども申しましたように、基本的には平成26年度に係る決算に基づいて第二次集中改革プランによる改革というものを引き続き進めていますので、その辺の部分について引き続き出来るものと出来ないものを選別し直し、考慮した中で、継続できる改革部分と新たに改革できる部分その辺についてこの懇談会にお示しさせていただきたいと考えていますのでよろしくをお願いします。

(副会長) ありがとうございます。次回の懇談会の予定をお願いします。

(事務局) 次回について、この懇談会は議会の行革委員会と並行して進めている関係上、次回の議会は3月になりますので、それ以降の4月か5月頃で調整させていただきたいと思います。詳しい内容につきましては、再度日程調整をさせていただいた中

で通知させていただこうと考えています。

(副会長) 皆さんよろしいでしょうか。それでは、長時間にわたり審議いただきましてありがとうございました。これをもちまして平成２７年度行財政改革懇談会を終了いたします。ありがとうございました。